

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)多摩運送株式会社 相模原センター	階数	地上3F
建設地	相模原市中央区下九沢字中ノ原1092番	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条指定区域	平均居住人員	18人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2016年3月18日
敷地面積	2,291 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業株式会社東京建築一級建築士事務所
建築面積	1,259 m <sup>2</sup>	確認日	2016年3月23日
延床面積	3,521 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業株式会社東京建築一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 79% (36 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 79%

④上記+: 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 事務所エリアには連窓を採用し、自然採光及び通風の確保。倉庫エリアは品質確保、エネルギー効率を上げる為、無窓居室にて計画。	<b>その他</b> 廃棄物については可能な限りリサイクル可能な材料を使用。	
<b>Q1 室内環境</b> 事務所部分及び倉庫内環境に配慮し、屋根に断熱性能のある二重折版を採用。	<b>Q2 サービス性能</b> 各階倉庫内積荷重量14,700N/m <sup>2</sup> 、有効高さ6.0m以上、事務室天井高さ2.7m確保。様々な変更にも対応出来るように汎用性を高めている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 条例で定められた面積以上の緑地を確保の上、敷地外周に中木の生垣を計画し殺風景な環境を和らげている。
<b>LR1 エネルギー</b> 事務室は南および東面に計画し連窓を採用することで、屋光を最大限に利用する事が出来、かつ冷暖房負荷を軽減させる計画とした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器の採用、F☆☆☆☆の建材の仕様など、省資源化に配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪場を1ヶ所にまとめることにより、交通負荷を抑制する計画とした。 本計画は北側に建物(工場・マンション)があり、風の影響が少ない地域である。 広告照明無し。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される